

スペインにおける中国語の拡がり —サラマンカ大学における調査より*—

永 江 貴 子

1. はじめに

周知のように、世界で人口トップの国は中国である。総務省統計局のデータ¹⁾によると2016年人口（概算値）は日本が1億2,690万人であるのに対し、中国は13億8,230万人、2020年の人口（推定値）は日本が1億2,410万人と減少しているが、中国は14億284.8万人と14億の大台を超えると推測されている。なお、その人口のみならず中国語に関しても、statista²⁾のデータによると2017年に最も話されている言語（概算値）は中国語³⁾の12億8,400万人であり、日本語の1億2,800万人の10倍もの人数となっている。昨今の中国の経済力拡大に伴い、また中国語の学習機関増加に伴い、今後中国語を学習する人口は更なる増加が見込まれる。では、現状の拡がりは如何なるものか。

本稿では、日本と異なり中国と隣接した地域に位置せず、中国語との類似性が乏しい印欧語に属すスペイン語を母語とするスペインにて、中国語教育及び中国人留学生に関して実施した調査結果をまとめた。

2. スペインにおける中国語教育と課題

スペインの中国語教育について研究は管見の限り乏しいが、その中でも周(2014)ではスペインの公立大学の中国語教育状況に関し次のように述べている。

排名前十位的の公立大学都陆续开设了汉语课程，排名前十位的公立语言学校都为成人开设了中文班。而且，每年开设中文课的公立和私立学校还在不断增加。…（中略）…一是受过长短期汉语教学课程培养并通晓中西语言文

化的汉语教师奇缺；二是适合西班牙大学汉语本科专业的汉语教科书基本没有，各大学凭教师的个人喜好选择认为合适的教材，并无统一的选择标准与统一的汉语教科书。突破困境的关键是本土汉语教师的培养。

(トップテンにランクインする公立大学は中国語コースを次々と開設し、同様のランクの公立語学学校でも社会人向けの中国語クラスを開講している。

更に、年々中国語クラスを開講する公立及び私立学校は絶えず増加している。…(中略)…1. 長期・短期にわたって中国語教育養成課程を履修し、また中国とスペインの言語と文化に精通した中国語教師が非常に不足。2. スペインの大学において中国語専攻に適した中国語のテキストは皆無に等しく、各大学は教員個人の好みに基づく適切だと考える教材を選択し、統一した選択基準と中国語教科書というものが無い。苦境突破の策として現地の中国語教師を育成することが挙げられる)

スペインでは、中国語教育機関が増加する一方、教員や教材の不足という問題点があるようだ。その解決策は、現地に合った中国語教師の養成だという。

上述の研究ではスペインの中国語状況に関し総括が述べられているのみで、具体的事例が挙げられていなかった。スペインの中国教育は、どのような点が発展途上で、如何なる点で現地化が必要であるのか。海外における中国語教育の拠点として孔子学院が有名であるが、次章では孔子学院を取り上げ日本と比較する。

3. 孔子学院

中国語教育の拠点として孔子学院が世界各地に設立されている。その孔子学院と日本の現状を取り上げ、次にスペインの孔子学院について述べる。

3-1. 孔子学院と日本

大塚(2017)では、孔子学院と中国の言語教育戦略に関し詳細な記述がある。同研究によると、孔子学院はドイツのゲーテ・インスティトゥート、スペインのセルバンテス学院など自国の言語普及のための学校に当該国の代表的文化人の名前を冠したことに倣い、2004年に中国語教育の学校として孔子学院とい

う名称をつけたという。中国の国家対外漢語教学領導小組という海外における中国語教育を指導するグループがあるが、その実務に当たる「国家対外漢語教学領導小組辦公室」（略称は「漢辦（Hanban）」、以下「漢辦」と称す）という組織があり、この漢辦の委託を受け、孔子学院が開かれたそうだ⁴⁾。

漢辦の公表したデータによると、2017年12月31日までに、世界146の国・地域に525箇所の孔子学院と1,113箇所の孔子課堂⁵⁾が設置されている⁶⁾。アジアは33の国・地域に118箇所、アフリカは39か国5箇所、ヨーロッパは41か国173箇所、アメリカは21か国161箇所、オセアニアは4か国19箇所である。また孔子課堂はアジアが21か国101箇所、アフリカが15か国30箇所、ヨーロッパが30か国307箇所、アメリカが9か国574箇所、オセアニアが4か国101箇所である。日本においては、14箇所の孔子学院が開設されている。それは「立命館孔子学院」、「桜美林大学孔子学院」、「北陸大学孔子学院」、「愛知大学孔子学院」、「札幌大学孔子学院」、「立命館アジア太平洋大学孔子学院」、「早稲田大学孔子学院」、「岡山商科大学孔子学院」、「大阪産業大学孔子学院」、「福山大学孔子学院」、「工学院大学孔子学院」、「関西外国語大学孔子学院」、「学校法人兵庫医科大学中医薬孔子学院」、「武蔵野大学孔子学院」である⁷⁾。

この孔子学院の教材について、大塚（2017）では「孔子学院本部は2015年末の時点で、延べ54種の言語からなる主要な教材802セット、6,643冊を作成し、各国の孔子学院に提供している」という一方、「孔子学院本部ないし漢辦による出版物をどれほど使用するか、とくに孔子学院教員が所在大学での教育を担当する場合に使用するか否かは、それぞれの所在国関係者の判断に委ねられている。すでに国内の中国語教育の専門家によって多くの教材が準備されている日本のような場合には、孔子学院本部編纂の教材が選択されることは多くない」と述べている。即ち、日本において孔子学院及び孔子学堂が開設されているが、中国語教育において先人の遺産が多々ある日本においては孔子学院編纂の教材を使用しないことが多いことがわかる。

3-2. スペインにおける孔子学院

スペインの孔子学院は8箇所開設されている。以下の表1は、スペインの孔子学院、受入期間、提携機関、開校日をまとめたものである。

表1 ス페인孔子学院一覧

スペイン孔子学院 ⁸⁾	受入機関	提携機関	開校日
①マドリード孔子学院	マドリード自治大学・Casa Asia	上海外国語大学	2005年11月14日
②グラナダ大学孔子学院	グラナダ大学	北京大学	2006年7月5日
③バレンシア大学孔子学院	バレンシア大学	東北師範大学	2007年5月25日
④バルセロナ孔子学院	バルセロナ大学・バルセロナ自治大学・Casa Asia	北京外国語大学	2008年6月3日
⑤グランカナリア島ラスパルマス孔子学院	ラスパルマス大学	長春師範大学	2010年11月8日
⑥レオン大学孔子学院	レオン大学	湘潭大学	2011年5月20日
⑦カスティーリャ・ラ・マンチャ大学孔子学院	カスティーリャ・ラ・マンチャ大学	南昌大学	2017年4月
⑧サラゴサ大学孔子学院	サラゴサ大学	南京工業大学	2017年6月

スペインにおいて設立された孔子学院が8校というのは、日本の14校に比較すると約半数である。但し、2005年にマドリード孔子学院開校後、毎年のように確実にその数を増やしていることが注目される。

周(2013)において、まずスペインにおける孔子学院の特色を比較している。更に包括的に理解するため、アンケート調査をスペインの孔子学院で様々な点で最も良いと考えられるマドリード孔子学院で実施した。その結果、中国語の教育方法が画一的、教員のスペイン語のレベルが低く、スペイン語版の教材があるが、スペイン人に焦点を合わせた教材とは言い難いとしている。

スペインの孔子学院関連の先行研究として他に、韓(2015)ではバレンシア大学孔子学院において教育した経験に基づき、この孔子学院の中国語教育の状況が述べられている。李(2015)は、バルセロナ孔子学院に派遣された教員が教授に際して用いる媒介語に関する調査をした。その結果、スペイン語が不得

手な教員でも教え方が良ければ学生の満足度が高いことがわかった。

孔子学院と提携しているスペインの大学における中国語教育事情について先行研究は数点あるが全体的に乏しく、提携がない大学に関しては、管見の限りほぼ研究がないようだ。そこで、本稿ではスペインにおいて孔子学院が開設されていない大学における中国語教育を調査し、そこから得られたスペインにおける中国語学習状況やそれを取り巻く状況について述べる。

4. サラマンカ大学における中国語・中国語教育の調査

2016年8月から9月まで約1か月間、スペインのサラマンカ大学において中国語教育について調査をした。サラマンカ大学における中国語教育、スペイン人の中国語学習状況、中国人留学生についてその調査結果を以下に述べていく。

4-1. サラマンカ大学における中国語教育

サラマンカ大学において東アジア専攻が2015年9月から開講された。ここでは、日本語、韓国語、中国語のいずれかの言語を主専攻とできる。この専攻開設以前は、日本語と韓国語のみが副専攻として学べ、中国語を専攻することはできなかった。この東アジア専攻の誕生により、サラマンカ大学において、中国語を主専攻とする学士号取得が初めて可能になったようだ。

東アジアコースの学生は1学年凡そ50名ほどの定員である。1年目である2015年度は日本語を専攻した学生が40名ほどいる一方、中国語専攻の学生は7名しかいなかったという。この7名という少なさは、サラマンカ大学で中国語が主専攻として学べることが、あまり周知されていなかったことが要因の一つと考えられるようだ。2年目である2016年度は新1年生の14名が中国語の専攻を志望したという。つまり2倍に増えたようだ。

1年目の中国語専攻の学生に対する中国語授業は、前期にあたる2015年9月から1月において、発音、文法、読解などゼロから総合的に学ぶ中国語総合Ⅰが週4時間、中国語会話Ⅰが週4時間であった。後期にあたる2016年2月から5月までは中国語の文字である漢字を学ぶ漢字学が週4時間であった。以上、1年生の中国語授業は表2のようにまとめられる。

表2 東アジアコース・1年生の中国語カリキュラム

期間	科目	時間
2015年9月－2016年1月	中国語総合 I	週4時間
	中国語会話 I	週4時間
2016年2月－5月	漢字学	週4時間

なお2年次の中国語専攻の学生に対しては、中国文学史や中西語比較（中国語とスペイン語の比較）⁹⁾を教授するという。

サラマンカ大学の中国語担当教員は、スペインで修士号を取得したスペイン在住の中国人教員1名と漢辦から派遣された2名の中国人教員である。中国語総合や中西語比較などのやや複雑な内容は、スペイン語が堪能なスペイン在住の教員が担当するという。

4-2. スペイン人中国語学習者の状況

サラマンカ大学で中国語を担当する盧山先生はマドリッド孔子学院や華人・華僑の中華学校でも中国語を教授してきた経験豊富な中国語教員であるため、スペイン人学生の中国語学習状況についてインタビューをした。

スペインの孔子学院では日本同様、大学生のみならず社会人も中国語を学んでいる。そこでは入門から初級レベルの中国語学習者がほぼ8割を占めており、中上級、超級が各1割という。一般的にスペイン人中国語学習者は、ピンイン併記のテキストを用いる入門・初級段階では学習意欲が高いが、ピンイン併記がなくなり漢字だけのテキストを用いる中級段階に入った途端、その難しさ故に放棄する学生が多いようだ。なお超級1割というのは、中国に駐在等で居住経験がある学生、または親が中国系である学生だという。このため、HSK受験に関しスペインの孔子学院では1級や2級の合格を目指す学生がほぼ8割を占めるようだ。なお日本人中国語学習者は漢辦が実施するHSKを受験する際、3級や4級から受験を開始するため、非漢字圏の中国語学習の難解さがうかがえる。

スペインではその中国語のレベル向上に一役買う華僑・華人が沢山居住している。当初、商業的な活動を目的にスペインに移住し、各地域で雑貨店や飲食店を開いてきたそうで、スペイン語も堪能ではないという¹⁰⁾。その子供の世代になると、スペインにて現地教育を受けたため、親とは逆に中国語の読み書きができなくなってきたという。そこでスペインで商業的な活動をする華僑・華人が中心となり、スペイン各地域に華僑・華人子弟のための中華学校が設立され、マドリードには4、5校ある。但し、スペインの正規の学校というわけではなく、土日開校の週末の塾のようなものが多いという。

4-3. サラマンカ大学における中国人留学生

サラマンカ大学における中国人留学生は、留学生全体の中で最も急増している。中国人にとってスペイン語は同じようにSVOの語順であるが、不完全なスペイン語の習得にとどまる留学生が多数見受けられるという。その最も躓きやすい点として、動詞の語形変化を挙げられていた。例えば中国語の“是”（～だ/～です）という動詞をスペイン語に訳す場合、主語の人称によって語形変化をする。例えば、“我”（私）の場合は“soy”、“你”（あなた）の場合は“eres”、“他/她”（彼/彼女）の場合は“es”、“我们”の場合は“somos”、“你们”（あなたたち）の場合は“sois”、“他们/她们”の場合は“son”に変化する。こうした語形変化は人称だけではなく、英語のように過去形や過去完了形、独自の使役形の使用があり、この点でしっかりマスターできず、不完全なスペイン語が定着してしまう中国人留学生が多いそうだ。

また調査当時、修士号取得のために来西する中国人留学生は多いが、スペインの歴史などスペインでしか学べないような学問で学位を取得する学生はごく少数であると聞いた。多くは東アジア専攻など自分の背景知識を活かせる専攻に入学し、中国の言語や文化についてスペイン語で執筆し、修士号を取得するそうだ。サラマンカ大学では修士課程修了年限が一般的に1年であるため、その短期間に修士論文が書けるほどの高度な知見を外国語であるスペイン語を通して身に付けるのは厳しいと考えられる。一方で、スペインまで留学したにもかかわらず、語学の壁を乗り越えられず、スペインに関する学問を修めずに、自身の中国に関する知識をスペイン語に翻訳することで学位を取得する学生が

多い点が、中国人留学生に対して不経済で勿体ないとの指摘があった。

5. おわりに

本稿では、スペインの中国語学習状況について、サラマンカ大学における調査結果をまとめたものである。スペインの中国語学習状況は教員や教材の不足など、日本の状況と比較すると発展途上にあるといえる。一方で、スペインにおける中国語教育機関は増えており、更にスペインの大学で学ぶ中国人は増加の一途を辿っている。今後、スペインで学位を取得した中国人が帰国し、スペイン語を習得した教員として続々と中国国内でスペイン語を教授するだろう。将来を予測した場合、スペイン語に熟知した教員がスペイン人に中国語を教授し、また中国語教材のローカライズが進み、スペイン人中国語学習者でも中国語に長けた者が増えるのではないかと考えられる。

このスペインの現状から世界における中国語学習の拡がり考察すると、中国語教育的に発展途上の国でも、孔子学院の世界各地への広がりからその種は確実に撒かれており、今後益々中国語が拡がる様相を見せているといえる。

注

* 本稿は拓殖大学短期留学制度で、2016年8月-9月にスペインのサラマンカ大学東アジアセクション客員研究員として滞在中に調査しまとめたものである。

1) 総務省統計局 (2017) 『世界の統計』より。

<https://www.stat.go.jp/data/sekai/pdf/2017a1.pdf>

2) statistaとは、ドイツに本社を置く、世界最大の統計ポータルである。

<https://www.statista.com/statistics/266808/the-most-spoken-languages-worldwide/>

3) 本稿でいう中国語とはMandarin (マンダリン) のことを指す。即ち中国大陸において公用語とされる普通話と称される言語のことである。

4) 漢辦が中国大使館教育処で海外の有名な大学や民間学校と交渉し、2004年10月25日、ソウルに第1号の孔子学院が開かれた。

5) 正規の大学以外で孔子学院のカリキュラムを実施する学校である。

6) 孔子学院・課堂 (漢辦のサイトより)

http://www.hanban.edu.cn/confuciousinstitutes/node_10961.htm

- 7) その他孔子学堂は8箇所である。
- 8) 中国語名は①马德里孔子学院、②格拉纳达大学孔子学院、③瓦伦西亚大学孔子学院、④巴塞罗那孔子学院、⑤加那利斯拉斯帕尔玛斯大学孔子学院、⑥莱昂大学孔子学院、⑦卡斯蒂利亚拉曼查大学孔子学院、⑧萨拉戈萨大学孔子学院。
- 9) 中国文学史や中西語対照研究について中国語をスペイン語に翻訳した学術書が、2015年あたりから続々とスペインで出版されつつあるという。
- 10) 著者も、サラマンカやマドリードで中華圏出身者経営の雑貨店を数件訪れ出身を聞いたところ、南方地域出身者が多かった。マドリードのアトーチャ駅近くに隣接の華人経営の雑貨店が2店舗あった。そこの店主は浙江省出身で、その隣の雑貨店は同郷の親戚を店主が呼び寄せ、経営させているという。

〈参考文献〉

- 韩迪 (2015) 《西班牙瓦伦西亚地区汉语零起点教材使用的调查研究》硕士研究生学位论文 东北师范大学
- 李超群 (2014) 《巴塞罗那孔子学院教学媒介语研究》硕士研究生学位论文 北京外国语大学
- 大塚豊 (2017) 「中国の対外言語教育戦略と孔子学院」『大学教育論叢第3号』福山大学 pp.33-54
- 唐晶 (2015) 《马德里汉语课堂教学调查报告》硕士研究生学位论文 黑龙江大学
- 周琳 (2013) 《马德里孔子学院发展情况调查报告》硕士研究生学位论文 上海外国语大学
- 周敏康 (2014) 〈西班牙公立大学本科专业的汉语教学〉《国际汉语教学研究3期》北京语言大学 p.8

付記 本稿執筆にあたり、サラマンカ大学東アジアセクション主任である Falero Folgoso Alfonso先生、中国語担当の盧山先生、拓殖大学の安富雄平先生、濱松法子先生、エンリケ アルマラス先生にご協力頂いた。ここに記して感謝の意を表する。